

荷主も他人事ではない効率化

長時間労働が常態化している運送事業者にとって、ドライバーにどれだけ効率よく仕事をさせるかが悩みの一つとなっている。しかし、延着が許されないトラックドライバーにしてみれば、時間に余裕を持って出発したいというのが常で、荷待ち時間を

社説

少しでも短くするために早く出発しておくというのは本来、転倒と言えぬ。荷待ち時間の長時間化の問題は、運送事業者だけでは解

決できる問題ではなく、発荷主、着荷主と協議しなければならぬ。期待されたトラック輸送における取引環境・労働時間改善協議会も一定の効果は認められるが、特効薬とまではいかない。発荷主からすれば、着荷主は顧客であり、強く言えないという関係もある。ある荷主の担当者は「物流に関しては、荷主はまったくの素人であり、運送事業者の方から『このように改善したい』と言ってもらわなければ、何もできない。荷待ちの問題も

同じ。複数の運送事業者と取引しているが、その運送事業者同士で話し合っただけ」と話していた。荷主が主導して物流改革を進めている例もあるが、まったくのレアケースだ。荷主が荷待ち時間を少しでもなくすよう努力してくれば、ドライバーも現場に早く到着する必要がなくなる。荷主にすれば「自分たちの仕事ではない」という思いもあるだろうが、物流がストップしてしまえば、運送事業者は「条件のいい荷主を優先的に運ぶ」ということになる。荷待ち時間の長い荷主は、最初に切られるだろう。自分で自分の首を絞める行為は避けたい。

シーネットコネクトサービス カゴ車Locator

「地方の小売店などがいか。物流事業者以

引

「引越を疑い、を取り払目標に掲まな取りしている越センタ中央区。同社を放想社長